



(1) 澤柳政太郎 (1865-1927)

成城学園創立者。文部省の官僚であり、教育学者あるいは思想家としても著名。大正自由主義教育運動で中心的役割を果たす。文部次官のほか東北帝国大学初代総長、京都帝国大学総長なども歴任。文部省の局長時代には義務教育の4年から6年への延長、小学校の教科書の無償化を行うなど、わが国の教育制度の整備に大きく貢献した。さらに東北帝国大学総長在任時に、日本で初めて女性の入学を認めたことでも知られる。

(2) 成城国際教育プログラム (SIEP)

「Seijo International Education Program」の略。世界共通言語である英語により、グローバル社会で求められる幅広い教養や知識、コミュニケーション能力を身につけ、海外留学・海外インターンシップを目指す。

(3) サポーター

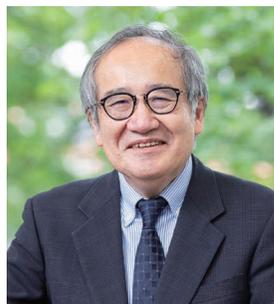
全国のサポーター団体の相互理解と連携を目的として毎年「サポーターズフォーラム」を開催。他大学や高校からも多数の参加があり、ディスカッションやグループワークを通して交流を深めている。



(上段左) 国際交流運動会(動画) (同右) 海外インターンシップ(動画)
(下段左) リニューアルしたキャリアセンター (同右) データサイエンス・ワークショップ(動画)

夏季や春季の休業期間を利用しての「海外短期語学研修」などもあり、グローバル社会で求められる幅広い

国際教養やコミュニケーション力を修得した後、交換・認定留学や海外インターンシップ(成城グローバル



すぎもとよしゆき
杉本義行学長
1980年東京大学農学部農業経済学科卒業。83年同大学大学院農学生命科学研究科博士課程中退。農学博士(東京大学)。千葉大学講師、成城大学経済学部教授、副学長などを経て2022年より現職。公益財団法人電通育英会評議員なども務める。

「日本教育界の父」と称され、わが国の教育界の発展に多大な貢献を果たしてきた澤柳政太郎博士⁽¹⁾の精神を受け継ぎ発展してきた成城大学。都内でも数少ない、幼稚園から大学・大学院までがワンキャンパスで学ぶアットホームな学習環境のもと、1世紀以上にわたり政財界から文化・芸術分野まで多くの人材を輩出しています。

教育と研究の軸となる伝統のゼミナールをはじめ、人文・社会科学系大学としてはいち早く導入したデータサイエンス科目群や独自の国際教育プログラム「SIEP⁽²⁾」など、学習者本位の先進的なカリキュラムを整備。次世代社会で生きる柔軟な思考力を育むカリキュラムと、一人ひとりの個性にあった丁寧なキャリアサポートにより、生涯にわたる「就業力」を育成し、企業をはじめ各界からも高い評価を獲得しています。

成城大学

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 入学センター TEL 03-3482-9100 <https://www.seijo.ac.jp/>

個性尊重と「学習者中心主義」のもと、 伝統のゼミと充実の理数系・国際教育で グローバル社会を牽引する人材を育成

「学習者中心主義」で 先進的な大学改革を展開

成城学園の歴史は、1917年に「科学的研究を基とした実験学校」として開設された私立成城小学校に遡ります。2005年に日本で初めて学部名称にイノベーションを用いた社会イノベーション学部を開設。2015年には人文社会科学系大学としてはいち早くデータサイエンス科目群を全学的に開講するなど、先進的な教学改革に取り組んでいます。その根底にあるのは、学園創設者・澤柳政太郎の「個性尊重」の思想である、と杉本義行学長は話します。

「この個性尊重には二つの意味があります。一つは個々の学習者の学び方の尊重、少数教育による「個別最適化」の教育であり、もう一つが『他者の個性の尊重』です。これこそは多様性、包摂性の教育であり、現代のSDGsの考え方に通じるものと言えるでしょう」

さらに、この個性尊重の教育は、学生を起点に考える成城学園の『学習者中心主義』に繋がっています。

「私は機会があるごとに『学生が自慢です』と話すのですが、幼稚園から大学院まで、異年齢の児童、生徒、学生がワンキャンパスで学ぶ成城ならではの環境も、学生にすぐれた影響を与えていると思います」

こうした成城大学の教育は、キャンパスの中だけで閉じてはいません。高大連携をはじめ、昨年6月には狛江市および狛江市教育委員会と学校法人成城学園が包括連携を締結するなど地域連携にも取り組んでいます。「産学連携の取り組みとしては昨年、デザイン企業として世界的に著名なIDEOの日本人の協力を得る全5回からなるデザイン思考のワークショップ『DESIGN THINKING LAB』の開講も実現させることができました。大学の枠を越えた教育効果で、学生を中心としたイノベーションの動きも生まれ始めています」と杉本学長は話します。

データサイエンス科目で 「理数系教育」を強化

成城大学ではデータサイエンスに特化した科目群を、2015年度に全学生の共通科目として開講するなど、「理数系教育」の充実力を入れています。こうした科目群を提供しているデータサイエンス教育研究センターでは、学生の資格取得や課外での活動もサポート。履修学生が外部のコンテストで優勝するなどの実績も挙げています。

知の宝庫「民俗学研究所」をはじめ ジェンダー問題の研究拠点も新設

より高度で先進的な研究・教育を行う機関としては、4大学院研究所・10専攻に加え、日本民俗学の創始者・柳田國男より寄贈された蔵書を中心に約10万冊の図書や民俗資料を所蔵する「民俗学研究所」や「経済研究所」、罪を犯した人が社会内で更生するよう、科学的知見に基づき解決に導く治療的司法について専門に調査・研究する日本初の「治療的司法研究センター」など独自の研究所・研究センターが多彩な研究活動を行っている。

そのほか、グローバルとローカルの境界で起こる諸現象を考察する「グローバル研究センター」、編集文献学の分野において国際的な学術貢献を目指す「国際編集文献学研究センター」が設置されています。さらに今年度は、スポーツの世界においてジェンダーやセクシャル리티の課題を研究する「スポーツとジェンダー平等国際研究センター」も新たに開設されました。

独自のキャリアサポートで 生涯を通じた「就業力」を育成

「世界の情勢を見ても、私たちが歴史上の大転換期の真っただ中にいることは間違いありません。10年後20年後の世界が分からない現代にお



データサイエンススクエア

「国際教育」の核となる 「SIEP」 成城国際教育プログラム

成城大学では語学力の向上だけでなく、実際に外国の文化に触れ、異文化と交流する経験を通じて「世界的な視野に立ち行動できる人材」の育成を目指しています。

その中核をなすのが成城国際教育プログラム「SIEP」です。各自の英語レベルと留学時期に合わせた履修モデルをベースに、専属教員による予約制の個別指導や、留学生と共に学ぶ英語開講科目などを受講。

いは、知識やスキルだけでなく、多様な人々と対話し、課題を解決する能力が求められます」と杉本学長は語ります。成城大学では、卒業後も一人ひとりが自分の信じる道を切り拓くことのできる「独立独行」の人になってもらうため、独自のキャリアサポート「就業力育成・認定プログラム」を実施。地域や企業の抱える様々な課題に対しグループワークで解決策を提案する実践的な演習プログラムで入学時から勤労観や職業観を段階的に養います。さらに人材育成企業との協働によるキャリア支援プログラム「澤柳塾」も開講。こうした取り組みにより、企業の人事担当者による就業力ランキングでも高い評価を獲得しています*。

「大学では決して失敗を恐れず、安心してさまざまな経験にチャレンジし、より深い学びを手にしてください。本学では皆さんが成長するためにワクワクして学べる機会を用意しています」と杉本学長はエールを送っています。

*日経キャリアマガジン特別編集『価値ある大学 就職力ランキング2023-2024』(株式会社日経HR発行)の「小規模大学総合ランキング」で成城大学は12位(都内の国公私立大学ではトップ)を獲得。



カフェのような居心地のよい空間で、授業が行われることもある8号館の「Lounge#08」